プロジェクトチームの取組状況

第1回県民会議(12/23開催)で意見の多かった**３テーマ（男性の育児参加、移住、若者応援）**でメンバーを募集し、議論をスタートしたので、その状況を報告します。

3つの先行テーマ

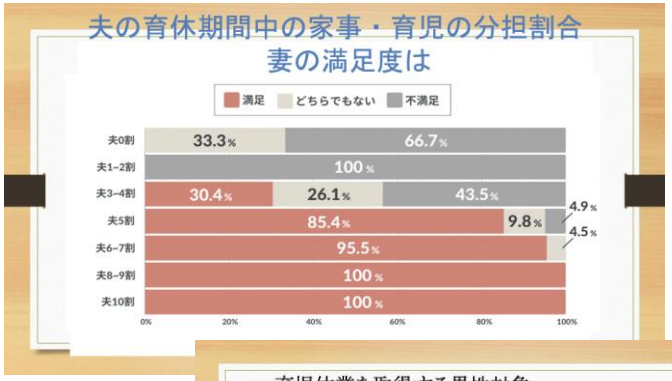
- 男性の育児参加
- 移住
- 若者応援

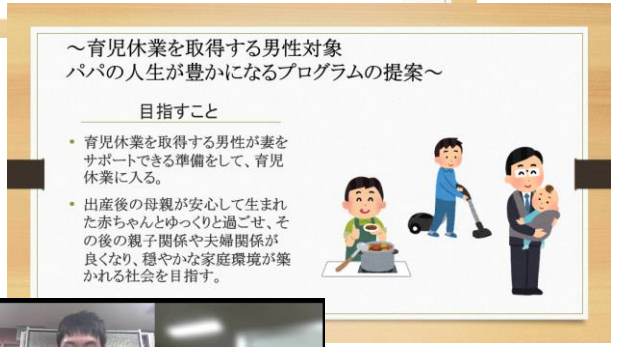
【プロジェクトチームとは】
信州未来共創戦略を進めるため、関心あるメンバーが集まって互いに学んだり 、具体的なアクションを企画・実行する集まりです。会員ならどなたでもプロジェクトチームのオーナーになることができ、仲間を募りながら活動していくことができます。

テーマ：『男性の育児参加』

1回目　3/5（水）※オンライン

- 法定の育休制度、国や県の政策、県内の育休取得率の状況などについて勉強会を実施。
- メンバーから、**男性の育休期間中の家事育児の分担割合によって夫と妻の満足度に違いがある**ことから、**育休を取得するパパのためのプログラムの創設**について提案があった。
- 参加メンバーも提案に共感し、次回のミーティングに向けて各自アイデアを持ち寄って議論することに。





2回目　3/12（水）※オンライン

- メンバーから、**夫婦で将来の目標を話し合うための目標設定シートの活用**、**一汁一菜でよいという提案**（具だくさん味噌汁を作る）、**夫婦が地域で頼れるサードプレイス**（家事代行・相談窓口など）**のリストアップ**、プログラムを使ってもらいたい**企業側へのヒアリング**、赤ちゃんの夜泣き対応など**リアルさを追求**したプログラムづくりなど、多くのアイデアが共有された。
- 今後、子育て等の分野における有識者の話を聞いてみたいという声も。
- 3/20の県民会議で、今後、取り組んでいきたいことについて、メンバーから発表。

出席メンバーの紹介

子育て中のママを応援する人／大学で心理学を専攻し現在ぶどう農家を目指している方／自身が県外からの移住者で移住相談のコンシェルジュをしている方／etc

テーマ：『移住』

1回目　3/6（木）※オンライン

- 長野県の移住施策全般について勉強会を実施。
- **共通していた点として**、日頃活動をしている中で、**移住後に定着してもらうためには、コミュニティや居場所が大事**という話があった。
- 田舎の人は弱みを見せたくない気質があって、困っていて一緒にやりませんかと言えると、地域外との交流が生まれるのでは。
- 「結い」というお互い助け合うという概念（飯田地域）があり、こうしたことで自然にコミュニケーションが取れていくという話があった。

2回目　3/13（木）※オンライン

- コミュニティや居場所など移住者等の受け入れに関係して、みんなで取り組むことのアイデア出しを実施
- **長野県に来てもらう理由**をたくさんつくる、**空き家やインフラを集中**させてまちを活性化させる、**歩いて楽しめるまちをつくる、移住者に加え定住に繋がらなかった方々から本音を探る**、受け入れをしている人たちの**オンラインコミュニティをつくる**、移住者等受け入れ先の**視察ツアー**を行うなど、多くのアイデアが出された。
- 多くのアイデアが生まれたので、次回に向け整理していくことに。

出席メンバーの紹介

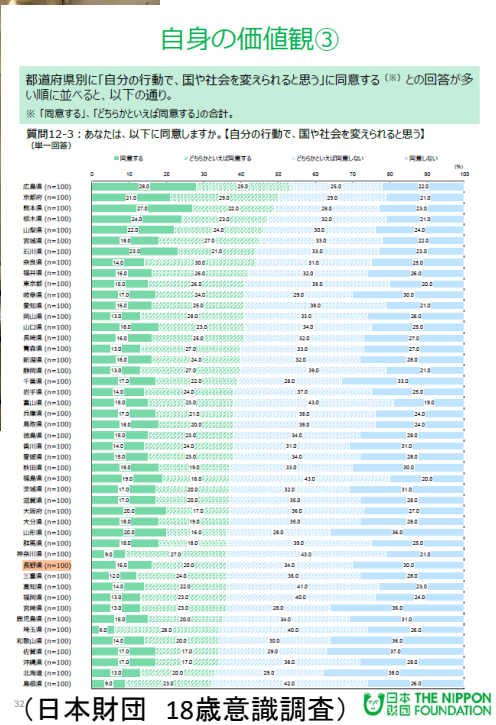
役者・アーティスト／ゲストハウスを運営している方／地域でマルシェを企画運営している方／元県職員の研究職の方　etc

テーマ：『若者応援』

1回目　3/11（火）※オンライン

- 若者の意識に関するデータや長野県の若者応援に関する施策等について勉強会を実施。
- メンバーから、**若者の挑戦を後押しする仕組み**（例えば企業から寄付を募って、高校生の活動に支援）を地域でやってみたいという話があった。
- 特に**若者に対して「失敗してもいい」というメッセージを伝えられることが重要**（若者は失敗が怖くて行動するのが億劫だし、自信がない）。
- **大人の引いたレールで学生を過ごし、社会出たとたん自分でやれと言われても何もできなくなる。**
- **若者の挑戦に成果を求めない（失敗して学ぶことこそが成功）、若者の背中を押してあげたいというメンバーの声多数**。
- 次回ミーティングでは、若者の背中を押すためのアイデアを持ち寄ることに。

（信州若者みらい会議から県の魅力発信や若者の交流の場づくり等について知事へ政策提案　R6.11.16）



（日本財団　18歳意識調査）

出席メンバーの紹介

ゲストハウスを運営している方／東京在住大型ECサイト運用代理をしている方／自身が県外からの移住者で移住相談窓口のコンシェルジュをしている方／山村留学に参加したことを機に移住した方／etc